

授業科目名	エアラインTOEIC対策 I						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	松永 清美						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	1	通年	必修	60	4	
授業目的 到達目標	エアライン採用試験に向けTOEIC600点取得を目指す。						
授業手法	・対面 <input type="radio"/>	・遠隔 <input type="checkbox"/>	・対面/遠隔 <input type="checkbox"/>	・オンデマンド <input type="checkbox"/>			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	ロールプレイ
	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	PBL	<input type="radio"/>	模擬授業		その他
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～8	授業説明、模擬テスト及び解答と解説			①TOEIC各パートの特徴を理解する		
	9～14	ハーフテスト、解答と解説			②自分の聴解力と読解力を把握する		
	15～30	Unit 1～Unit8			③目標点数を明確にする		
	31～32	前期末テスト			④自分に必要な課題に取り組み、目標点数を取得する		
	33～36	Unit 9～10					
	37～42	ハーフテスト、解答と解説			⑤英語の音声に近い発音の習得をする		
	43～50	Unit 11～14			⑥仕事で使えるフレーズや単語を身につける		
	51～56	ハーフテスト、解答と解説					
	57～58	Unit 15					
	59～60	後期末テスト					
成績評価方法	期末テスト・小テスト（50%）、平常点（50%）（出席率・授業態度・課題提出）						
使用テキスト ／教材	『SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER』 『はじめてのTOEIC L&Rテストハーフ模試3回分』 『TOEIC L&Rテストボキャブラリーブスター』						
関連科目	エアラインTOEIC対策Ⅱ・TOEIC上級						
その他	諦めず強い意志をもって学習し、目標を達成しましょう。電子辞書、または英和辞典を持参すること						

授業科目名	エアライン筆記試験対策						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	山崎 弘						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	1	通年	必修	30	2	
授業目的 到達目標	不得意とする非言語分野の学力向上をし、採用試験（SPI）で成果を出す						
授業手法	・対面	・遠隔	・対面/遠隔	○	・オンデマンド		
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	○	グループワーク		ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1 ～ 2	基礎学力の確認と基本計算力			① 基本的計算力が定着する		
	3 ～ 4	数学的各種基本単位の修得			② 代数を扱える		
	5 ～ 6	基礎数学の考え方（百分率）			③ 百分率の計算ができる		
	7 ～ 8	基礎数学の考え方（距離、時間、速さ、容積）			④ 推論に対して情報を図示できる		
	9 ～ 10	割合と損益計算			⑤ 確率の考え方を習得して問題を解ける		
	11 ～ 12	推論と命題			⑥ 順列と組み合わせの相違を理解する		
	13 ～ 14	確率、組合せ、順列			⑦ 順列・組み合わせの問題が回答できる		
	15 ～ 16	集合の理論			⑧ 逆数を理解し仕事算問題を解ける		
	17 ～ 18	仕事算の考え方			⑨ 表とグラフの解釈ができる		
	19 ～ 20	表とグラフ			⑩ グラフの領域問題が解ける		
	21 ～ 22	資料解釈におけるデータの見方			⑪ 時間内での問題回答数をあげられる		
	23 ～ 26	SPI実践対策（練習問題による演習含む）			⑫ 設問に対する解法の手段を選定できる		
	27 ～ 30	傾向理解と総合演習					
成績評価方法	【前期】・期末筆記試験（50%）、出席率（50%） 【後期】・期末筆記試験（40%）、後期課題（30%）、出席率（30%）						
使用テキスト ／教材	教材：キャリアデザインノート（オリジナルテキスト） 副教材（演習問題用）：これが本当のSPI3だ（講談社）						
関連科目							
その他							

授業科目名	客室実習 I						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	阪本 知恵						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
実技		1	通年	必修	60	2	
授業目的 到達目標	保安要員とサービス要員の二つの役割を理解しその責任を全うするために必要な考え方、資質を身につけることを目標とします。実習を通し正しい言葉遣い、立居振舞を身につけます。						
授業手法	・対面 <input type="radio"/>	・遠隔 <input type="checkbox"/>	・対面/遠隔 <input type="checkbox"/>	・オンデマンド <input type="checkbox"/>			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業 <input type="radio"/>		反転授業 <input type="checkbox"/>		調査授業 <input type="checkbox"/>		フィールドワーク <input type="checkbox"/>
	双方向アンケート <input type="checkbox"/>		ペアワーク <input type="radio"/>		グループワーク <input type="radio"/>		ロールプレイ <input type="radio"/>
	プレゼンテーション <input type="radio"/>		PBL <input type="checkbox"/>		模擬授業 <input type="checkbox"/>		その他 <input type="checkbox"/>
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～4	概要説明、目標設定、スケジュール			① 2年間の明確な目標設定と月ごとの目標、日々の目標等を定めることができる ② 客室乗務員の業務がわかる ③ 客室乗務員に必要な資質がわかり、身につけるために必要なことを学ぶ ④ 実際のサービスについて知り、実践できる ⑤ 学んだことを他コースの学生へ提供できる ⑥ 機内の設備や装備品について知識を得る ⑦ 保安用品や保安業務の重要性を知る ⑧ 緊急時対応について学び、実際に脱出研修で体験する ⑨ 客室乗務員の大切な業務や必要な資質を知り目指す姿を明確にする		
	5～6	業務の流れ、客室乗務員の資質、接客用語					
	7～10	FDA様連携授業					
	11～12	国内研修					
	13～16	サービス業務復習					
	17～20	前期末試験					
	21～24	前期復習、マインドセット					
	25～30	FDA様連携授業					
	31～34	コース外連携授業AS					
	35～42	保安の知識（機内の設備と装備品）					
	43～46	保安の知識（安全性チェック）					
	47～50	航空機緊急脱出訓練研修					
	51～58	保安業務総復習等					
59～60	後期末試験						
成績評価方法	・出欠席（20％）・授業内取り組み（25％）・各学期末試験（45％）・FDA様評価（10％）						
使用テキスト ／教材	・エアラインテキスト(オリジナル)						
関連科目	客室実習Ⅱ、秘書知識（選択）						
その他	・身だしなみを整えて受講すること（女子学生はスカーフ着用必須） ※実務経験のある教員が担当する科目である						

## シラバス（授業概要）

2024 年度

授業科目名	航空基礎知識						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	今井 美佳 / 小澤 恵巳子						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義		1	通年	必修	30	2	
授業目的 到達目標	航空業界の仕事を理解し、客室乗務員として身に付けておきたい専門用語や航空機に関わる知識の習得を目標とします。併せて航空機や運航に関わる気象やルートについても学びます。						
授業手法	・対面 ○	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業 ○	反転授業	調査授業	フィールドワーク			
	双方向アンケート	ペアワーク	グループワーク ○	ロールプレイ			
	プレゼンテーション	PBL	模擬授業	その他			
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	DVD資料鑑賞を用いたグループワーク、 主要空港コード			① 国内外主要航空会社コードを理解できる。 ② 国内外主要空港コードを理解できる。 ③ アルファベットコードを理解し、様々な 単語をコードに変換し表現できる。 ④ 基本的な専門用語、危険物知識、手荷物 のルールが理解できる。 ⑤ 出入国知識、CIQ各分野の役割を理解できる。 ⑥ アライアンスの仕組みを理解し、グループ分 けができる。 ⑦ 航空機が飛ぶ原理が分かる。 ⑧ 様々な航空機の特徴を知り、航空機に 興味を持てる。 ⑨ 空港の機能と設備を知ること、働く環境の 理解ができる。 ⑩ 空の安全性を気象状況を含めて理解できる。		
	3～4	主要航空会社コード、アライアンス					
	5～10	専門用語、アルファベットコード					
	11～12	小テスト					
	13～16	基本的な危険物及び手荷物ルール					
	17～18	出入国知識（旅券・査証・CIQ）					
	19～20	前期期末本試験					
	21～22	航空機概論					
	23～24	機体の構造を知る					
	25～26	世界の航空機と製造メーカー					
	27～28	空港の機能と設備					
	29～30	航空気象と空の安全					
成績評価方法	前期期末本試験60%、小テスト30%、出席率及び授業態度10%						
使用テキスト ／教材	航空基礎知識テキスト（オリジナル）、講師作成資料、夢のお仕事シリーズDVD						
関連科目	客室実習Ⅱ						
その他	小テストは1回のみの実施の為、欠席の場合は課題提出にて評価とする。 ※実務経験がある教員が担当する科目である。						

授業科目名	面接対応Ⅰ						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	阪本 知恵						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
実技		1	通年	必修	30	1	
授業目的 到達目標	客室乗務員の採用面接試験を突破することを目的とします。第一印象の好感度を上げ、自己表現力を磨きます。自己分析を徹底的に行います。						
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○	反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	○	グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション	○	PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略				わかる目標・できる目標	
	1～2	航空業界の面接を知る					
	3～4	立ち姿 座り姿 入退室 第一印象				① 航空業界の採用面接試験について知る	
	5～8	自己分析 表情コントロール				② 今まで歩んできた道を振り返り、 そこで学んだもの、興味のあるものを考える	
	9～14	エントリーシート対策（自己PR、志望動機等）				③ 自己分析を徹底し、自己を理解する	
	15～18	模擬面接（過去のエントリーシートに基づく）基本				④ 自分の長所を見つけ上手にアピールできる	
	19～22	模擬面接（過去のエントリーシートに基づく）企業ごと				⑤ 自分以外の人に伝えたいことが明確に伝わる	
	23～26	企業様就活特別授業 模擬面接				⑥ 表情良く話ができる	
	27～30	ディスカッション 就職対策に向けて				⑦ 適切な言葉遣いができる	
						⑧ 第一印象を作り上げる	
					⑨ 声のトーンや、美しい所作で振舞える		
成績評価方法	・ 出欠席（30%） ・ 提出物、取り組み姿勢（40%） ・ 各学期末試験（30%）						
使用テキスト ／教材	面接テキスト（オリジナル）						
関連科目	面接対応Ⅱ						
その他	・ 身だしなみを整えて受講すること ※実務経験のある教員が担当する科目である						

授業科目名	手話演習						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	大川 香織						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
演習	・講義	1	通年	必修	30	1	
授業目的 到達目標	全国手話検定5級試験合格を目指す						
授業手法	・対面 ○	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	○	グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	あいさつ			① 基本的な単語を覚える ② 表情を豊かに表す ③ 手話は言語であることを知る ④ 聴覚障害について理解する ⑤ 全国手話検定5級合格を目指す ⑥ 検定試験練習で出題傾向に慣れる ⑦ 手話単語の復習を必ずすること ⑧ 伝える努力をする		
	3～4	数字					
	5～6	家族					
	7～8	復習					
	9～10	趣味					
	11～12	職業					
	13～14	聴覚障害について（ゲストろう講師）					
	15～16	前期試験					
	17～18	学生生活					
	19～20	一日/5級単語①					
	21～22	一週間/小テスト/5級単語②					
	23～24	一年/小テスト/5級単語③					
	25～26	復習/小テスト/5級単語④					
27～30	手話検定5級試験練習（ろう講師授業含む）						
成績評価方法	前期：前期試験（70%）、出席（30%） 後期：検定試験合格（70%）、出席（30%）						
使用テキスト ／教材	静岡発～手話は言語～手話学習テキスト（静岡県聴覚障害者協会発行）						
関連科目	サービス介助						
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である						

授業科目名	エアラインマインド I						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	小尾 純子						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義		1	通年	必修	30	2	
授業目的 到達目標	客室乗務員の適性を理解し、その姿に自分自身を近づける。						
授業手法	・対面 ○	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	○	グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	授業の目標の理解			① 客室乗務員の適性を理解する。 ② 自己管理能力の習得 ③ 客室乗務員向きの生活習慣の体得 ④ 客室乗務員向きの印象を作る。 ⑤ 客室乗務員向きのコミュニケーション法 ⑥ 感覚が鋭くなる。 ⑦ 肯定的思考力の体得		
	3～4	客室乗務員になって何がしたいか					
	5～6	心と身体を整える①英語週間に向けて					
	7～8	航空会社と客室乗務員					
	9～10	客室乗務員の仕事と適性 国内研修に向けて					
	11～12	印象の大切さ					
	13～14	心と身体を整える②国内研修を終えて					
	15～16	国内研修振り返り逆算での生活					
	17～18	評価					
	19～20	客室乗務員のやりがい EDT, 羽田研修に向けて					
	21～22	見られている意識					
	23～24	体力維持とセルフケア					
	25～26	肯定的思考力					
27～28	言葉を磨く						
29～30	評価						
成績評価方法	出欠席（40％）、提出物（30％）、期末テスト（30％）						
使用テキスト ／教材	講師オリジナル書き込みノート						
関連科目	エアラインマインドⅡ、異文化研究						
その他	※実務経験がある教員が担当する科目である。						

## シラバス（授業概要）

2024 年度

授業科目名	エアラインTOEIC対策Ⅱ						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	松永 清美						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	2	通年	必修	60	4	
授業目的 到達目標	エアライン業界への就職に必要なTOEICのスコア600点の取得と自己最高得点を目指す。 生活や就職で即戦力として使えるフレーズの習得。						
授業手法	・対面 <input type="radio"/>	・遠隔 <input type="radio"/>	・対面/遠隔 <input type="radio"/>	・オンデマンド <input type="radio"/>			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	ロールプレイ <input type="radio"/>
	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	PBL	<input type="radio"/>	模擬授業		その他
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～6	授業説明、模擬テスト、解答・解説			①TOEIC各パートの特徴を理解する		
	7～12	ゼロからのTOEIC Part1・Part2 出る単特急			②英語の音声に近い発音の習得をする		
	13～18	ハーフテスト・解答・解説			③聴解力を高める		
	19～24	ゼロからのTOEIC Part2・Part5 出る単特急			④実際に仕事先で使えるフレーズや単語を 身につける		
	25～30	ゼロからのTOEIC Part3・Part5 出る単特急					
	31～32	前期期末テスト			⑤目標の設定と自己最高点を目指すための 課題を把握する		
	33～38	ゼロからのTOEIC Part3・Part6 出る単特急					
	39～44	ハーフテスト・解答・解説			⑥アクティブラーニングを取り入れ、学ぶ ことに主体性を持つ		
	45～50	ゼロからのTOEIC Part6 出る単特急					
	51～58	ゼロからのTOEIC Part5・Part6・Part7 出る単特急、問題演習					
	59～60	後期期末テスト					
成績評価方法	期末テスト・小テスト（50%）、平常点（50%）（出席率・授業態度・課題提出）						
使用テキスト ／教材	『ゼロからのTOEIC L&Rテスト600点全パート講義』 『TOEIC L&R TEST出る単特急銀のフレーズ』						
関連科目	エアラインTOEIC対策Ⅰ						
その他	電子辞書、または英和辞典を持参すること						



授業科目名	エアライン英語						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	阪本 知恵						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
演習	・講義	2	通年	必修	30	1	
授業目的 到達目標	接客英語、航空基礎英語、訓練での知識を英語で学び、様々な表現や単語に触れることで英語力を向上させることを目的とします。サービスロールプレイでは他コースの学生に英語でおもてなしをします。						
授業手法	・対面 <input type="radio"/>	・遠隔 <input type="checkbox"/>	・対面/遠隔 <input type="checkbox"/>	・オンデマンド <input type="checkbox"/>			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業 <input type="radio"/>		反転授業 <input type="checkbox"/>		調査授業 <input type="checkbox"/>		フィールドワーク <input type="checkbox"/>
	双方向アンケート <input type="checkbox"/>		ペアワーク <input type="radio"/>		グループワーク <input type="radio"/>		ロールプレイ <input type="radio"/>
	プレゼンテーション <input type="radio"/>		PBL <input type="checkbox"/>		模擬授業 <input type="checkbox"/>		その他 <input type="checkbox"/>
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	概要説明 1年次習得の復習			① 航空業界で使われる表現がわかる ② 客室実習Ⅰで学んだサービスを英語で提供できる ③ 想定される機内会話の様々なパターンを知り、表現を習得する ④ 他コースの学生にも自然な表情と所作でサービスできる ⑤ 英語アナウンスの表現を知る。 ⑥ 航空業界だけでなく観光業で役立つ表現を身につける		
	3～8	テキスト演習					
	9～10	英語アナウンス					
	11～18	GL1連携授業準備 概要GRP分け、シナリオ作成					
	19～22	ロールプレイ練習					
	23～24	GL1連携授業 リハーサル&本番					
	25～30	テキスト演習 観光業界英語を学ぶ					
成績評価方法	[前] 出欠席 (30%)、授業参加度 (30%)、ロールプレイ評価 (40%) [後] 出欠席 (30%)、授業参加度 (30%)、授業内小テスト [前+後] (40%)						
使用テキスト ／教材	English for Tourism Professionals 講師作成プリント						
関連科目							
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である						

授業科目名	客室実習Ⅱ						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	阪本 知恵						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
実技		2	通年	必修	60	2	
授業目的 到達目標	客室実習Ⅰで学んだ基本を生かし、想定されるイレギュラー、クレーム対応等、状況に合わせた臨機応変な対応ができることを目標とします。コース外連携授業や学外の方との連携授業を通し、実践力・対応力を身につけます。						
授業手法	・対面 <input type="radio"/>	・遠隔 <input type="checkbox"/>	・対面/遠隔 <input type="checkbox"/>	・オンデマンド <input type="checkbox"/>			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業 <input type="radio"/>		反転授業 <input type="checkbox"/>		調査授業 <input type="checkbox"/>		フィールドワーク <input type="checkbox"/>
	双方向アンケート <input type="checkbox"/>		ペアワーク <input type="radio"/>		グループワーク <input type="radio"/>		ロールプレイ <input type="radio"/>
	プレゼンテーション <input type="radio"/>		PBL <input type="checkbox"/>		模擬授業 <input type="checkbox"/>		その他 <input type="checkbox"/>
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～6	サービス業務実習復習			① 客室実習Ⅰで学んだものをスムーズに発揮できる ② 機内アナウンスの発声や伝え方を習得できる ③ 適切な言葉遣い、表情コントロールができる ④ イレギュラー対応ができる ⑤ 連携授業指導教官FAIに接客できる ⑥ 幅広い年齢層に対応できる ⑦ 状況に応じた立居振舞ができる ⑧ グループ内で主体的にアイデアを発想できる ⑨ ロールプレイで航空専門用語を積極的に使用できる		
	7～12	保安業務実習復習					
	13～20	サービス実践授業準備					
	21～22	サービス実践授業					
	23～30	AA/AS コース外連携授業 準備					
	31～40	AA/AS 学外連携合同実習 準備（ま・あ・る）					
	41～42	前期評価					
	43～46	AA/AS 学外連携合同実習（ま・あ・る館外講座）					
	47～48	AA/AS コース外連携授業					
	49～54	イレギュラー対応					
	55～60	航空専門用語と接客用語					
成績評価方法	[前] 出欠席（30%）課題提出（20%）FDA様評価（25%）評価対象ロールプレイ（25%） [後] 出欠席（30%）課題・取組姿勢（20%）評価対象ロールプレイ（50%）						
使用テキスト／教材	・エアラインテキスト（オリジナル） ・講師作成プリント等						
関連科目	客室実習Ⅰ、航空基礎知識						
その他	・身だしなみを整えて受講すること（女子学生はスカーフ着用必須） ※実務経験のある教員が担当する科目である						

授業科目名	面接対応Ⅱ						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	阪本知恵・松永清美・蓬萊正樹						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
実技		2	通年	必修	30	1	
授業目的 到達目標	自己表現力と会話力を磨き、航空業界の面接に対応できる力をつける。また、企業でも生かせるプレゼンテーション力を身につける。						
授業手法	・対面	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	○	グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション	○	PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略				わかる目標・できる目標	
	1～2	企業が求める人材像の理解と自己分析					
	3～16	模擬面接：企業別対策				①自己分析に基づき長所をアピールできる。	
	17～24	模擬面接：グループディスカッション				②企業が求める人材像を理解する。	
	25～30	プレゼンテーション				③②に基づき自己表現できる。	
						④会話の中で自身の意見を伝えられる。	
						⑤会話の中で自身の興味関心を伝えられる。	
						⑥感じの良い会話が続けられる。	
						⑦ディスカッションで自分の考えを まとめて話せる。	
						⑧問題解決に積極的に取り組める。	
						⑨表現力を高め、課題に対しての プレゼンテーションができる。	
	成績評価方法	出欠席（30%）、取り組み姿勢（40%）、期末試験（30%）					
使用テキスト ／教材	面接テキスト(オリジナル)・講師作成プリント						
関連科目	面接対応Ⅰ						
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である						

## シラバス（授業概要）

2024 年度

授業科目名	サービス介助						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	大川 香織、小澤 恵巳子						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
演習	・講義	2	通年	必修	30	1	
授業目的 到達目標	機内で使われる接客手話の習得を目指します。また、サービス介助手資格を持つ教員からお手伝いが必要なお客様への気配りやサービスと介助方法を学びます。						
授業手法	・対面 <input type="radio"/>	・遠隔 <input type="checkbox"/>	・対面/遠隔 <input type="checkbox"/>	・オンデマンド <input type="checkbox"/>			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業 <input type="radio"/>	フィールドワーク	
	双方向アンケート		ペアワーク	<input type="radio"/>	グループワーク <input type="radio"/>	ロールプレイ	
	プレゼンテーション <input type="radio"/>		PBL		模擬授業 <input type="checkbox"/>	その他	
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	機内会話 1（搭乗 手荷物 安全 サービス）			① 機内での会話を手話で話す ② 表情を豊かに、伝える努力をする ③ 福祉関係の法律や制度、用語を学ぶ ④ 手話単語を正確に覚える ⑤ ろう者と機内会話に挑戦する ⑥ 合理的配慮について理解する ⑥ 車いすの操作・介助が出来るようになる ⑦ 視覚障がい者の状況が理解できる ⑧ 視覚障がい者の介助が出来るようになる ⑨ 航空会社の対応を理解し、実践に移せる ⑩ 高齢者について理解し、介助が出来る		
	3～4	機内会話 2（トラブル 体調不良）					
	5～6	機内会話 3（空港内の案内 紛失物対応）					
	7～8	機内会話 4 復習					
	9～10	機内会話 5 ろう講師と会話					
	11～12	合理的配慮					
	13～14	テスト					
	15～16	航空会社・サービスの現場での合理的配慮					
	17～18	ユニバーサルなサービスに関する用語の理解					
	19～20	車いす使用者への介助方法（操作の注意点）					
	21～24	航空会社の車いす対応について					
	25～26	高齢者の定義と接客対応について					
	27～28	高齢者施設での実習					
29～30	視覚障がい・身体障がい者の状況と介助 介助犬について・クロックポジションの活用						
成績評価方法	[手話] テスト（70%）、出席率（30%） [介助] 本試験（50%）、出欠席（30%）、取り組み姿勢（20%）						
使用テキスト ／教材	・静岡発～「手話は言語」手話学習テキスト（静岡県聴覚障害者協会発行） ・接客用会話テキスト（オリジナル） ・サービス介助テキスト（オリジナル）						
関連科目	手話演習						
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である						

授業科目名	エアラインマインドⅡ						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	小尾純子・大橋美穂子						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・実技	2	通年	必修	30	2	
授業目的 到達目標	目標に向かって努力し続ける強い精神力を持ち、客室乗務員として、航空業界で働く人材として必要な創造直、対応力、精神力を身につける。						
授業手法	・対面 <input type="radio"/>	遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	目標の設定 タイムプレッシャーについて			① 聞いたことを再生できる ② 雑談から相手の要望を聞きだす力 ③ 気が利く人になる ④ サービスへのこだわりを持つ ⑤ サービスを作り出す ⑥ タイムプレッシャーに強くなる ⑦ 自信を持って説明できる ⑧ 気持ちの切り替えができる		
	3～4	客室乗務員の適性					
	5～6	お客様の気持ちを読み取る					
	7～8	体力・筋力・食事が業務を支える					
	9～10	サービスと想像力					
	11～12	体力維持					
	13～16	サービスを作り出す					
	17～18	会話力と事例研究					
	19～20	評価					
	21～22	夏休み課題の共有					
	23～24	自律神経ケア					
	25～28	クレーム対応					
	29～30	評価					
成績評価方法	毎回の提出物（60％）、期末試験（40％） 欠席した場合も提出物の指示を教員に確認し、提出すること						
使用テキスト ／教材	講師オリジナル冊子、一日一行 自由国民社						
関連科目	エアラインマインドⅠ						
その他	※実務経験がある教員が担当する科目である。						

## シラバス（授業概要）

2024 年度

授業科目名	異文化研究						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	小澤恵巳子 / 植田夏美 / 平野広幸 / 相澤宏代 / 山梨千恵子						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義		2	後期	必修	30	2	
授業目的 到達目標	お客様は勿論、一緒に働くクルーも多国籍であるという環境では異文化理解が必要です。文化の違いを理解した上で、それを意識したサービスができるように様々な国の習慣や文化を学びます。						
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク		グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション	○	PBL		模擬授業		その他
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	マナープロトコールについて知る① 国旗他			①プロトコールに関わる知識習得 ②プロトコールに基づいたサービスができる ③異文化を理解する ④異文化理解に基づきサービスを創造できる ⑤通訳ボランティアを通して コミュニケーション力の向上が目指せる ⑥働く上で日本との違いを理解しそれを認める ⑦他国の人とのコミュニケーションが スムーズにできる ⑧異文化を学ぶことで視野が広がる		
	3～6	清水港入港客船について調べる					
	7～10	清水港客船ボランティアに向けての講義					
	11～12	異文化理解：国について知る ～インド編～					
	13～16	清水港にて客船ボランティア実習					
	17～20	異文化理解：日本人のビジネス文化とインバウンド対応					
	21～26	異文化理解：国について知る ～中国・韓国・タイ・フランス・ドイツ・メキシコ編～					
	27～28	異文化理解：国について知る ～シンガポール編～					
	29～30	マナープロトコールについて知る② ワインの知識等					
成績評価方法	出欠席（50％）、提出物等（50％）						
使用テキスト ／教材	講師オリジナルプリント・パワーポイント						
関連科目	エアラインマインドⅠ						
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である						

授業科目名	TOEIC上級（選択）						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	阪本知恵						
授業形態（主）	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	2	後期	必修選択	30	2	
授業目的 到達目標	観光業界全般で必要とされる高い英語力を習得する。実力の裏付けとしてTOEIC高得点獲得を目指し、自己学習の習慣を徹底する。						
授業手法	・対面 ○	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業 ○		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク ○		グループワーク		ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～18	テキスト演習 リーディング・リスニング			① TOEIC各パートの特徴を理解する ② 正解へのポイントを理解する ③ 正解へのポイントを問題に活かせる ④ 英語の音声に近づけて再現できる ⑤ 頻出単語を習得する ⑥ 頻出イディオムを習得する ⑦ 言い換え問題に対応できる		
	19～30	模擬試験					
成績評価方法	出欠席(20%)、単語テスト(40%)、小テスト(40%)						
使用テキスト ／教材	・公式TOEIC LISTENING&READING プラクティス リーディング編 リスニング編 (国際ビジネスコミュニケーション協会) ・講師作成プリント						
関連科目	エアラインTOEIC対策 I						
その他	※毎授業辞書を持参すること						

授業科目名	秘書知識（選択）						
学科・コース	国際エアライン科／エアラインコース						
担当教員	小澤 恵巳子						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	2	後期	必修選択	30	2	
授業目的 到達目標	秘書業務に限らず、社会人として心得ておきたい接遇マナーや文書作成等を学びます。 また経済用語や社交場の知識など組織で役に立つ知識を習得、秘書検定2級取得を目指します。						
授業手法	・対面	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク		グループワーク		ロールプレイ
	プレゼンテーション	○	PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	秘書の仕事と必要とされる資質			①社会人に必要な自覚と心構えがわかる ②人間関係調整力が身に付く ③企業活動の目的と組織がわかる ④税金の知識が身に付く ⑤社会常識として知っておきたい用語がわかる ⑥上手な話し方・聞き方のコツがわかる ⑦報告・説明のポイントがわかるようになる ⑧接遇用語が使えるようになる ⑨慶事・弔辞の対応がわかるようになる		
	3～5	職務知識（秘書の仕事の機能と上司との関連）					
	6～9	一般知識（社会常識・時事問題等）					
	10～14	マナー接遇（人間関係とマナー・話し方・交際）					
	15～18	技能（会議・文書柵瀬・資料管理・スケジュール管理）					
	19～26	2級検定対策（実問題より）					
	27～30	総まとめと期末試験 ロールプレイング対応練習					
成績評価方法	小テスト（30%）、期末試験・検定結果（50%）、出欠席・取り組み姿勢（20%）						
使用テキスト ／教材	秘書検定2級実問題集・パーフェクトマスター（早稲田教育出版）						
関連科目	客室実習 I						
その他							